



みんなで考える“まちづくり”

地域フォーラム報告書

平成22年1月25日・29日

協働のまちづくり推進計画検討委員会

地域フォーラム報告書

目 次

	ページ
1 開催日時・会場	1
2 プログラム	1
3 参加者数	2
4 内容	3
第1部 先進事例発表	
第2部 意見交換【パネルディスカッション】	
5 アンケート回収率	13
6 アンケート集計結果	14
 【参考資料】	
(1) 開催案内チラシ	29
(2) アンケート	31

1 開催日時・会場

日程	時間	会場
1月25日(火)	18:00~20:15	富里中央公民館 4階大会議室
1月29日(土)	14:00~16:10	北部コミュニティセンター 2階ホール

2 プログラム

(1) あいさつ

(2) 先進事例発表

【発表団体】

特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

発表者：牧野昌子氏（代表理事）

臼井ふるさとづくり協議会（佐倉市）

発表者：高田 稔氏（会長）

コーディネーター：関谷 昇氏（千葉大学法経学部准教授）

(3) 意見交換【パネルディスカッション】

『富里市における協働のまちづくりについて』

総合司会：久野直衛氏（検討委員会委員長）

パネリスト：牧野昌子氏（ちば市民活動・市民事業サポートクラブ代表理事）

高田 稔氏（臼井ふるさとづくり協議会会長）

関谷 昇氏（千葉大学法経学部准教授）

《25日》 高澤忠彦氏（検討委員会委員）

《25日》 吉澤 勝氏（前新中沢区長）

《29日》 長徳實義氏（検討委員会副委員長）

《29日》 金子 守氏（日吉台自治会連合協議会会長）

3 参加者数

	一般参加者	関係者	合計
25日（火）	13	29	42
29日（土）	75	22	97

※関係者は、検討委員会委員、パネリスト等、事務局の人数です。

☆出席委員☆

	委員名
25日（火）	久野委員長 長徳副委員長 石井委員 加藤委員 小泉委員 小林委員 竹生委員 長谷委員 二上委員 荒野委員 斉藤委員 鈴木委員 高澤委員 新井委員 榊原委員 堀越委員 森委員 片貝委員 （18名）
29日（日）	久野委員長 長徳副委員長 石井委員 加藤委員 小泉委員 小林委員 竹生委員 二上委員 鈴木委員 高澤委員 長谷川委員 森委員 （12名）

☆委員の役割分担☆

	担当	
	1/25（火） 公民館	1/29（土） 北部
進行	二上委員	加藤委員
総合司会	久野委員長	
パネリスト	ちば市民活動・市民事業サポートクラブ（牧野代表理事）	
	臼井ふるさとづくり協議会（高田会長）	
	関谷先生	
	検討委員（高澤委員）	検討委員（長徳委員）
	地域の方（吉澤勝氏）	地域の方（金子守氏）
議事録作成	長谷委員	鈴木委員
	荒野委員	竹生委員
会場係	事務局	事務局
アンケート集計	事務局	

4 内容

第1部 先進事例発表

【発表団体】

特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

発表者：牧野昌子氏（代表理事）

臼井ふるさとづくり協議会（佐倉市）

発表者：高田 稔氏（会長）

コーディネーター：関谷 昇氏（千葉大学法経学部准教授）

《 事例発表 》

（関谷先生）

○協働とは何か。

地域では、さまざまな地域活動が展開している。地縁団体・PTA・商店街・NPO等々による活動が地域に大きな影響を与え、注目されている。協働とは、活動主体を相互に結びつけていくことでもある。

○協働のまちづくりが重要になっている背景



少子高齢化が進行している中で、誰が地域社会を支えていくのかが問われている。自治体等の税収も減少しつつあり、行政だけでは限界がある。従来のやり方では厳しい状況に直面している。公共サービスのあり方を地域社会で考えていくことが重要。

○地域の可能性を結びつけること

行政と地域をどう結びつけていくか。地域の活力をどうやってつくるかを考え、実行していくかにより、行政が単独で行うよりも地域づくりが大きく期待される。その地域にどのような資源がどんな形であるのか。眠ったままの資源を発掘していくことが協働のまちづくりの推進に極めて重要なことである。

《特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ》

(牧野氏)

NPO とは・・・法人格を持っている組織団体に限らず，広くボランティア団体グループ等を含めて，市民・民間で地域を支援していく組織。

○組織概要



活動地域，千葉県内。22名のスタッフで活動。

収入 2,500万円/年。

地域の資源をつなげていく地域の公益的活動をサポートし，地域づくりに貢献していく役割を担う。

○事業内容

- ・相談事業（200件/年）・NPO支援事業（NPO 応援講座：20企画/年）
- ・地域づくりのコーディネート事業

「県とNPOとの協働事業」，「景観まちづくりフォーラム事業」等。

- ・他との連携事業

「県・市町村審議会，協働計画づくり委員，補助金審査」・「企業連携(千葉ロッテマリーンズ チャリティシートの活用について等)」・「協働の実績（H21 内閣府地方元気再生事業等）。」

- ・その他

NPO の情報開示でひと・もの・資金の新しい価値を創り出す仕組みづくり。

地域づくりとは・・・地域の課題，問題を地域住民が活かして，解決するために活動する。より住みやすく，活気あるコミュニティを作る。よそ者，若者を受け入れる多様性のある地域構築が大切。

(関谷氏)

極め細やかな連携，持続性を高めるためには，基礎体力を高めることが重要。他団体との連携が求められている。これには，中間支援が必要な場合もある。

《臼井ふるさとづくり協議会》

(高田氏)

佐倉市臼井は、昭和 50 年以降宅地開発されたまちで、新住民と既存住民との温度差が激しかった。

○協議会の目的

臼井小学校区を活動区域とし、当該地域の住民が協働し、公共の利益に資する活動を民主的に行うことにより、心豊かで生き生きと暮らすことの出来る活力に満ちたまちづくりに寄与すること

○協議会の構成

「臼井小学校区の自治会・町内会・区」・「諸団体 臼井小学校・臼井 PTA・臼井西中学校・臼井地区社会福祉協議会・臼井地区民生・児童委員協議会・公募委員等」。

○事業の内容

「地域団体相互の連絡・調整、情報交換、交流」・「臼井小学校の子供に関すること」・「青少年の健全育成」・「環境美化」・「防犯・防災・安全に関すること」等。

○組織

広報・防犯・防災・文化体育・事業の 5 部会。

ふるさとづくり協議会協力委員、

臼井小学校区住民で構成。

※積極的参加者へのアプローチ（アンケート）

高齢者による夜回りや青色パトカーでの庁内パトロールなど。

会合に出たくても出れない人、人助けをしたいと思っても機会がなかった人などが集ってきた。



(関谷氏)

一部会ではできないが、各部会が補完し合うことが重要である。小学校区単位をベースとしつつも、区域を超えての活動や企画を立てる方法もある。行政と連携してまちづくりを進めていく事例が増えつつある。

第2部 意見交換【パネルディスカッション】

『富里市における協働のまちづくりについて』

《1月25日分》

総合司会：久野直衛氏（検討委員会委員長）

パネリスト：牧野昌子氏（ちば市民活動・市民事業サポートクラブ代表理事）

高田 稔氏（臼井ふるさとづくり協議会会長）

関谷 昇氏（千葉大学法経学部准教授）

高澤忠彦氏（検討委員会委員）

吉澤 勝氏（前新中沢区長）

《 パネルディスカッション概要 》

自己紹介

（総合司会：久野委員長）

前半部分の質問を受け付ける。

（会場）

市民活動をサポートしてくれる NPO があることを始めて知った。担い手不足を解消するために時間預託制度が有効と考える。富里で実施する場合のアドバイスをいただきたい。

（パネリスト：牧野代表理事）

時間を保証する仕組みや制度を継続していくためには、コーディネーターのような人が、信頼・信用していただかないといけないものだと思う。助け合いの活動のほうがわかりやすいと思う。コーディネートしていくことをどこがどう担っていくのかを具体的に考えていくといいと思う。

（斉藤委員）

NPO 法人を立ち上げる際、どのような手続きが必要か。

（パネリスト：牧野代表理事）

NPO 法人制度は、1998 年 12 月にできた。法人にするとメリット・デメリットがある。まずやらなくてはいけないことは、定款を決めることや理事の選任（3人以上）などがあつた。大変なことは、毎年ごとに事業報告書・決算書などの書類は必ず提出しなければならない。法人申請については、認可・許可制ではなく、認証である。行政との契約（受託業務）を望むのであれば、法人格が必要になる。

(総合司会：久野委員長)

富里市でも「市民活動サポートセンター」が必要だと話し合ってきたが、設置は、スムーズにいくものなのか。

(パネリスト：牧野代表理事)

千葉市のセンターでは、市民活動団体に特化し、印刷機や会議室などが整備されていて 2 万人が利用している。四街道では、相談業務になるが、月に 300 人が利用している。利用が多ければ、設立しても運営できるのではないかと。

(総合司会：久野委員長)

住民が主体的に活動するには、各自治会の役割が重要であり、検討委員会では共通認識事項である。小学校区単位の集まりで立ち上げるべきかどうか。臼井ふるさとづくり協議会での立ち上げの苦労した点は。

(パネリスト：高田会長)

立ち上げは、9町会で同時期に盛り上がったので、あまり苦労はしなかった。3年がたち、会員の年齢やエリアに偏りがある。今の課題としては、人員の調達やマンネリ化してきている。



(パネリスト：高澤委員)

富里市内で学校区単位の協議会があるのが、第一小学区だけである。区長会の役員もしているので、立ち上げに向けて話をしたこともあるが、役員自体が1年交代のためなかなかスムーズに協議が進まない。臼井では任期はどうか。

(パネリスト：高田会長)

インフラ整備の違いが大きい。新興住宅地は、インフラが整っている。区長の任期もばらばらで、1年もあれば、複数年もある。役職につく場合、3年ぐらいが理想だと思う。

(総合司会：久野委員長)

市民の立場として、協働条例についてどういう感想をもっているか。

(パネリスト：吉澤氏)

条例が施行されて1年たち改めて「協働」を強く出されているのはなぜか。なぜ、今協働なのかわからない。問題解決の手法になるのだろうか。条例を策定したことによって大げさになっているのではないかと。

(総合司会：久野委員長)

協働に関しては、全部は理解していない。地域の問題解決は、行政だけでは解決できないこともある。

これまでの経緯を高澤委員に説明願いたい。

(パネリスト：高澤委員)

条例に基づき、それを推進するための実行計画を策定している。6月から、地縁組織・消防団・社会福祉協議会・商工会などの現状を把握した上で、検討委員が各グループにわかれ、実行計画を検討してきた。地域フォーラムで、市民の声を聞かせていただき、市長に案を提出することになっている。

(パネリスト：関谷先生)

「共同」が一般的だが、共に同じではなく、異種同士が手を取り合い、組織などの絆を越えていろいろな意味で協力することが「協働」である。財政が厳しくなり、行政がしてきたサービスが対応しきれなくなりつつある。地域住民でできることは地域住民でまかない、よく議論し、新たなものを生み出していくのが協働のまちづくりである。



(会場)

NPO クラブのコンセプトは、初めからできていたのか。公益支援ができるプロ集団をどう集めたのか。

(パネリスト：牧野代表理事)

市民の活動が地域を支えていく。その活動を支えていく必要があると感じ、セミナーから始めた。中間支援は抽象的でわかりにくいので、活動の中で理解してもらいながら信頼してもらえるようにした。費用は、個人会員、団体会員の会費でまかなっている。

(会場)

支援活動している人は、プロなのか。

(パネリスト：牧野代表理事)

スタッフは、特別な資格を有していない。経験者が経験のない人に教えて広げていく形が理想だと考える。

(会場)

自治会をうまくやっていくコツはなにか。教職員との協働はどうなっているのか。課題が残るということだったが、地域住民からの聞き取りは、どのようなものがあるのか。

(パネリスト：高田会長)

「一つにまとまる」事が大切だと思う。

先生との役割分担はない。オブザーバー的に参加する学校区があっても、生徒や先生が基本ではなく、市民が主体でやる活動である。休耕地の問題があるので、今後、休耕地を利用した企画を検討している。他に印旛沼の環境美化の推進も予定している。

(会場)

推進計画検討委員会について、市ホームページで見つけれなかった。それから推進委員会というのもあるようだが、具体的にはどういうことをする組織なのか。

(総合司会：久野委員長)

推進委員会は、条例に定められた委員会であり、主に推進状況等をチェックする機関である。今後も定期的にフォーラムを開催し、意見交換できる場を開催したいと思っている。実行計画は、23年～27年までに5カ年の計画である。是非協力願いたい。

《1月29日分》

総合司会：久野直衛氏（検討委員会委員長）

パネリスト：牧野昌子氏（ちば市民活動・市民事業サポートクラブ代表理事）

高田 稔氏（臼井ふるさとづくり協議会会長）

関谷 昇氏（千葉大学法経学部准教授）

長徳實義氏（検討委員会副委員長）

金子 守氏（日吉台自治会連合協議会会長）

《 パネルディスカッション概要 》

自己紹介

(パネリスト：長徳副委員長)

協働が重要であると思っているだけではだめだ。市と共にどうやってい

くか、住民意識が問われている。協働まちづくり条例策定委員会や推進計画検討委員会に参画し、委員の活発な意見交換・議論を交わし、実行計画（案）をまとめた。〔資料１・実行計画（素案）について説明〕

（パネリスト：金子氏）

高齢者に対する考え方もテーマにすることも必要ではないか。条例は、市民に周知されているのか。

（総合司会：久野委員長）

必ずしも十分でない。今後も条例の趣旨・目的をふまえ、議論を深めつつ、必要な情報を提供し、周知していく。

（会場）

推進計画について、もっと具体的に説明してほしい。

（パネリスト：長徳副委員長）

検討委員会を３つのグループにわけ、各班の検討事項について、推進事項を具体的なものにしていくことを視点として議論した。条例をどう実行に移すかということが重要である。今後、推進計画が策定され、推進委員会を設置し取り組んでいくことになる。〔資料１．実行計画（案）各区分・事業項目と内容を説明〕

（パネリスト：金子氏）

臼井駅のメイン通りが活性化しているが、経過・状況について高田さんに伺いたい。

（パネリスト：高田会長）

商店街の活性化は、全国的に苦慮している。飲食店など回転が速く、夜になるとシャッターが閉まる。こうした現象は城下町特有である。地元自治体ももっと係わっていく必要がある。臼井についても、そのような傾向にある。

（総合司会：久野委員長）

高澤さんに学校区単位の協議会について伺いたい。

（高澤委員）

第一小学校は旧くからやっている。条例の検討の時も学校区単位で協議会組織をつくるべきだという意見が出されていた。小学校単位で協議会を設置することが理想的である。単位自治会では解決できないものもあるが、小学校単位の地区協議会をつくるべきだ。

(パネリスト：金子氏)

地域づくりには人・もの・資金がポイントとなる。臼井協議会では学校の中に事務局を置き、会長はパソコンで情報提供しているとのことだが、今後もこの方法でやっていくのか。活動に参加するのは各自治会で偏りがあるのか。

(パネリスト：高田会長)

市から90万円の補助金が交付されているが、今年度は70%程度の執行になると思う。ふれあい広場20万円、防犯、講師料等10万円、広報誌発行等々を執行している。活動等に際し、経費の節減に努力している。

(総合司会：久野委員長)

今後、こうした意見交換の場をつくっていくことも大切と考えている。特に協働のまちづくりを進めていくうえでサポート体制づくりも重要である。



(パネリスト：長徳副委員長)

〔サポート体制づくりについて推進計画
(案)事業の計画事項等を説明〕

(会場)

全体像の中でピックアップしてつくる力点がみられる。実行に移す段階では、計画事項や内容が整理されなければできないということではなく、出来るところから進めていくことが重要ではないか。地域・地区の特徴を活かしていくこと。情報の提供や共有はもちろんだが、点でなく線で結ぶことから始めたらどうか。

(総合司会：久野委員長)

一つずつ実行に出来るところから始め、拡大していくことが大切だと考える。

(会場)

防犯・防災など日吉台でもやっている。自治会と推進協議会、PTA等の地域組織の活動とどのように違うのか。重複しないで取り組んでいくことだと考える。

(総合司会：久野委員長)

点と点になりがちになるのではという意見だが、プロセスについて高田さんに伺いたい。

(パネリスト：高田会長)

点と点に共通性を持たせることを模索した。町会の同じ仲間として捉えているのだという認識が必要である。互いに情報を開示することが大切であり、情報を共有することにより、連帯意識が生まれる。

(パネリスト：関谷先生)

個々の点でできないことについては、規模の問題、自治会の延長として捉えていることもある。点と点を線で結ぶことは、もっと広く他の団体・組織との連携や裾野を広げる契機となることともいえる。地域には持っている個性もある。また、いろいろな要素を入れながら組織をつくることもある。この推進計画の計画項目が整備されないとできないということはない。模索しながら進めていくことが大切である。

(総合司会：久野委員長)

協働と絆づくりについて牧野さんから意見を頂きたい。

(パネリスト：牧野代表理事)

自治会活動から市民活動に移る人も多い。また、カルチャー活動から市民活動に入っていくこともある。例えば、地域町内会の空き家について市と連携し、草刈りをしたり、また、専門性を合わせ持ってやっていく協議会組織づくりなど、受け皿を広く持っていくなかで、協働のまちづくりの絆が育まれていく。

(会場)

住民の絆づくりには、相互の信頼関係が重要と感じた。税収の減少、少子高齢化の進む中で、住民参加の条例や計画づくりはもちろんであるが、スピード感を持って進めて欲しい。

(会場)

商店街を含め、日吉台地区の活動を網羅した事業がみたい。点で活動しているのはあるが、点と点を結びつけていないのが現状である。どうしたら良いのかわからない。まず、網羅した組織が必要である。

(会場)

協働のまちづくりのステップについて、どこで、どうやっていくのか、実行までの流れを抑えて欲しい。

(企画課長)

貴重な意見・要望については、十分留意し、まちづくりを進めていく。今後のスケジュールを含め、推進事業・推進体制等については、詳細を記す推進計画の整備・充実を図っていく。

(総合司会：久野委員長)

行政がすべてを担っていくというやり方は、これまでの過去のやり方である。これからは計画段階から実行まで市民が係わりを持っていくことが重要である。

5 アンケート回収率

	参加者数	回収数	回収率
25日(火)	13	8	61.5%
29日(土)	74	47	63.5%

6 アンケート集計結果

Q1) 性別

	1/25 (一般)	1/25 (委員)	1/29 (一般)	1/29 (委員)	合計
男	7	3	36	1	47
女	1	2	11	0	14
合計	8	5	47	1	61

Q2) 年齢

	1/25 (一般)	1/25 (委員)	1/29 (一般)	1/29 (委員)	合計
30代	1		2		3
40代			4		4
50代			7		7
60代	4	4	24	1	33
70代以上	3	1	10		14
合計	8	5	47	1	61

Q3) お住まい小学校区

	1/25 (一般)	1/25 (委員)	1/29 (一般)	1/29 (委員)	合計
富里小					
富里第一小	3		2		5
富里南小	1	1			2
浩養小					
洗心小					
日吉台小	1	3	43	1	48
根木名小	1				1
七栄小	1	1			2
未記入			1		1
市外	1		1		2
合計	8	5	47	1	61

Q4) ご職業

	1/25 (一般)	1/25 (委員)	1/29 (一般)	1/29 (委員)	合計
自営業		1	6		7
農業・自営業等, 家業の従事者			1		1
お勤め(フルタイム)	1		5		6
パート	2		3		5
学生					
専業主婦	1	2	7		10
その他	4	2	24	1	31
未記入			1		1
合計	8	5	47	1	61

※その他の内訳

	1/25 (一般)	1/25 (委員)	1/29 (一般)	1/29 (委員)	合計
無職	1	1	10		12
年金生活(受給者)	1		4		5
コンサルタント		1			1
就活中			1		1
未記入	2		9	1	12

Q5) 本日のフォーラムに参加して「協働のまちづくり」についてどう思いましたか。

	1/25 (一般)	1/25 (委員)	1/29 (一般)	1/29 (委員)	合計
共感を持った	4	4	31		39
よくわからなかった	1		8		9
共感を持てなかった	3	1	1	1	6
未記入			8		8
合計	8	5	48	1	62

※1/29(一般)には、共感を持ったとよくわからなかったと両方○をつけた方がいる。

※特に印象に残ったことがございましたら、ご記入ください。

1/25 アンケートより(一般)

(70代以上男性)

・条例が出来てからの活動結果についてもう少し時間をかけて話していただ

きたかった。

- ・これからどうして行くのか展望が見えなかった。
- ・自己紹介は出来るだけ省略して、ディスカッションをしてほしかった。
- ・もう少し参加者（関心者）があつたらと思います。

（60代女性）

- ・市民活動のサポートクラブが年間200件の相談を受けているというお話。
- ・臼井の小学校区単位の活動。目的を決めたバスに同じ考えを持った人に集ってもらう。言葉ほど甘くない、大変だったのではないか。
- ・富里も一歩一歩進めていきたい。

（30代男性）

- ・途中から出席したので、先進事例がきけなかったのが、残念でした…。

（60代男性）

- ・牧野さんの話しは、NPOクラブの目的・コンセプトが明解で（途中で変化して出て来た）しかも仕事のプロ集団の人材の集まりであるので、直接「まちづくり」に役に立たない、支援には役に立つ。プロの人材集団をどの様に集めたか。苦労話しを聴きたかった。→情熱が全て!!

（70代以上男性）

- ・何でも行政にたよっている時代ではなく（予算が少ない）市民が出来る事は市民がやる様に協力する事が大事だという事が印象に残った。

1/25 アンケートより（委員）

（60代男性）

- ・事例1の紹介、事例2の紹介 ⇒ 富里市案の紹介 ⇒ 参加者の意見を出させる。というのが、理想であろうが…。チョット時間的に無理だったかも!! パブリックコメントでどう出させるか!!

（60代女性）

- ・市民活動をサポートし、継続してゆくにあたり、担い手不足、後継者不足が課題であると思うが、臼井ふるさとづくり協議会の高田氏の理念が非常に印象に残っている。

（60代女性）

- ・牧野さんのお話、大変勉強になりました。信頼づくりを基本に頑張ります。

（70代以上男性）

- ・「協働」について、頭の中が整理されてきた。又、自身の活動体験と合致

する事がある事に気付いて勇気を得た思いです。問題は如何に広く横のつながり（有志，同志，仲間，地域）を作れるか。次世代へどう継承できるか。難しさをも感じました。

1/29 アンケートより（一般）

（30代男性）

- ・点の活動を線に，線をたくさん書いて面にしていく。これが「『協働』のまちづくり」だと思います。

（50代女性）

- ・NPO 法人について
- ・地域のチカラを集める，つなぐ，広げる。地域づくりについて

（70代以上男性）

- ・市の活性化するためのプランであることは充分理解出来た。参加者の意見が創造する事業の意義・意味をよく検討する機会をなるべく多く持ち，普及して欲しい。

（50代女性）

- ・協働のまちづくり条例が施行された事は解った。主旨は解ったが，具体的に地元で行なうことがよく理解できなかった。

（60代男性）

- ・参加者の意見にスピード感が必要（実績を早く上げる）というものがあつたが，そのとおりだと思う。一步一步の実績の積み上げが成功のひけつ！

（60代男性）

- ・NPO の説明，又，協働について大変理解することが出来ました。

（60代男性）

- ・実行計画（素案）の説明がわかりやすかった。

（40代男性）

- ・事前準備等ご苦労様でした。進行も手際良く，内容説明もていねいに出来ていたと感じました。

（60代女性）

- ・臼井のまちづくりをお聞きしていて，日吉台三丁目の活動とも重なって，身近に感じた。いろんな事が出来そうな気がした。

（60代女性）

- ・共感を持ちましたが，自分が何ができるかわからない。

(70代以上男性)

- ・ 具体論に乏しく、行政と一体になって協働して行こうという気持ちに今一つなれなかった。

(60代男性)

- ・ まちづくりについて具体的な進め方のアドバイスがなかったように思う。高齢者の今後のサポート、子育て中の若いお母さんへの支援、若い人達に住んでもらえるようなまちづくり、人の集まるまちづくりを考えていただきたい！！

(60代男性)

- ・ 3丁目自治会が行っていることが、そのまま「協働のまちづくり」になっている気がした。3丁目自治会が先進的だと感じた。

(60代男性)

- ・ 今、何故、協働かが良く判らない。協働は良いことであることはもちろんであるが、国、地方の役割から何かを補なうとしているのであろうが、もう少し詳しい説明があっても良いのではないか。問題点をはっきりさせて、その対策とか？

(60代男性)

- ・ 「協働のまちづくり」が具体的にどういう事なのか、自分なりに理解出来た。

(70代以上男性)

- ・ 臼井ふるさとづくり協議会

(60代男性)

- ・ 口先、きれい毎だけでなく（ボランティアは）。まず皆の為の実行！協働！

(60代男性)

- ・ 他の説明

(50代女性)

- ・ 話し合いの方向性を持たせて、まとめていくのは難しかったのかと思いますが・・・。

(50代男性)

- ・ 協働のまちづくりと現在の自治会活動との関わりが今ひとつどうあるべきか、まだ理解不足でした。

(70代以上男性)

・「協働」を付けなくても、簡単なみんなで考えるまちづくりで良いのではないですか？

(60代女性)

・とても大切なこと、自分にやれることがあれば、活動しなければ・・・ということはよくわかったが、具体的にどうすればいいのか、ということに関しては、はっきり理解できません。(自分自身の理解力の問題もありますが)

(60代男性)

・計画検討委員会による実行計画は、体系づけられていて理解しやすかった。短期間で良く整理され、まとめられた計画書であると感心しました。
・市民活動をサポートするNPOクラブが存在していることを初めて知りました。大いに活用させていただいたら良いと思いました。

1/29 アンケートより (委員)

(60代男性)

・主催者側の発言が多すぎた。Forumの体をなしてないとも見受けられる。富里らしさ/強み/弱みを明確にしての方向性が必要。他事例の二番せんじはつまらない。

Q6) 本日のフォーラムを聞いて今後の活動の参考になりましたか。

	1/25 (一般)	1/25 (委員)	1/29 (一般)	1/29 (委員)	合計
なった	5	4	22		31
ならなかった	1		6	1	8
未記入	2	1	19		22
合計	8	5	47	1	61

※どんなことができそうだと思いますか。もしございましたら、ご記入ください。

1/25 アンケートより (一般)

(30代男性)

・子育て支援、防災意識啓発など

(60代男性)

・公、私の見直し。これは公がやるんだと決めつけしないで、私ができるれば良

いと思う。

(60代男性)

- ・みんなの市民が困っている事を明解にすべきである。これが第一番にすること。これを目標にすべきである。

(70代以上男性)

- ・自治会の活動との協力等が大切だと思いました。

1/25 アンケートより (委員)

(60代男性)

- ・それぞれ切り口が異なる＝事例紹介が特に参考になった。

(60代男性)

- ・資料1の説明がされなかったが、協働で何をするのが理解できなかった。

(60代女性)

- ・NPO法人の立ち上げに関してのノウハウについて、大変参考になった。

(70代以上男性)

- ・地区活動に一段と身を入れたい。奉仕したい。

1/29 アンケートより (一般)

(30代男性)

- ・情報紙での広報活動

(50代女性)

- ・NPO, 地域のつながり

(50代女性)

- ・富里市全体の事となると広範囲であまり実感として考えられなかった。

(60代男性)

- ・公共施設の民間委託

(40代男性)

- ・NPO 民間助成金の活かし方を考えてみたい。

(60代女性)

- ・どんなことが出来るのか？と問われれば、具体的に今思い浮かばないが、提案された中でお手伝い出来ることは参加したいと思います。

(60代女性)

- ・今まで通り自分のまわりで自分のできる事、気のついた事をできる時にやっっていこう。

(70代以上男性)

- ・一応、それなりの参考になった。

(60代男性)

- ・スクールガード

(60代男性)

- ・地域同志のネットワークの強化による市民活動の活性化

(70代以上男性)

- ・参考事例がもっと多く示してほしい（今後）
- ・やれることからスタートするのが良いと考える

(60代男性)

- ・課題を出しやすく、テーマに向かっていく

(50代女性)

- ・具体的な展望が想像できない。ゆっくり考えます。

(60代女性)

- ・基本的な組織作りは必要だが、組織にこだわらず、少しでも何かやれそうと思う。同じ気持ちの人が、一人でも多くなるよう努力することが大切だと思います。今、すでに地域で活動が始まっているので、その裾野を広げることが大事。日吉台には、いろいろなことが出来る。そして、まだ活動できる人がたくさんいます。

(60代男性)

- ・出来ることから実行する。情報の共有化を行う。これが活動の基本であるので、励行していくことが重要であると思う。

(60代男性)

- ・地域間、団体間の交流による情報交換から始められるのではと思います。
ーひよし地区の個々の組織や団体の活動は、他地域のそれに決して勝るとも劣ってはいないと思っています。
ーしかし、点での活動であるので、線で結ぶことを目指したいと思っています。

1/29 アンケートより（委員）

(60代男性)

- ・何をアピールしたいかがみえない。総花的である。

Q7) 本日配布させていただいた資料について、ご意見や具体的なご提案がございましたら、ご記入ください。

1/25 アンケートより（一般）

(30代男性)

- ・フォーラムのパネリストの方々のプロフィール資料も配布があるといいなと思いました。

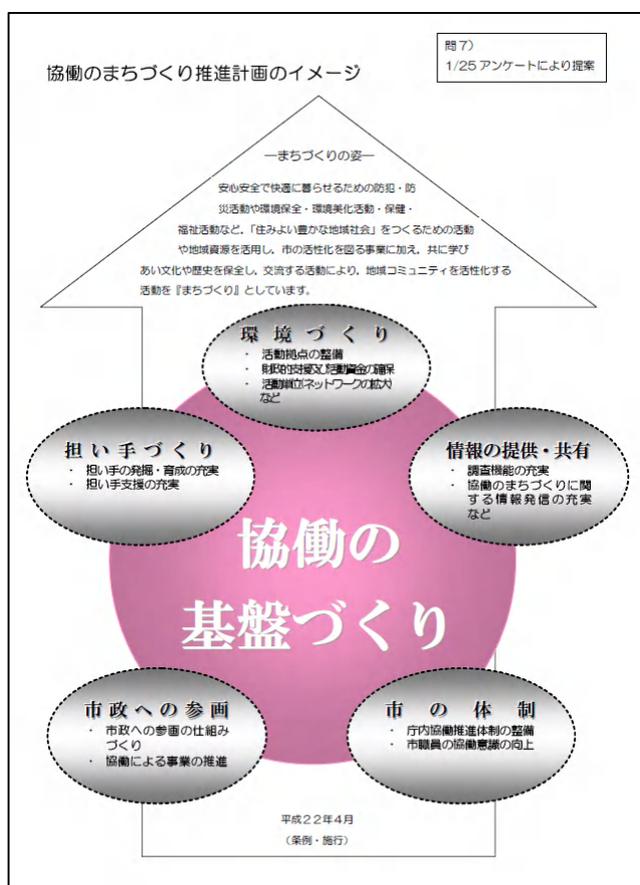
(60代男性)

- ・富里でもサポートセンターは出来ると感じた。

(70代以上男性)

- ・資料1の2ページの協働のまちづくり推進計画のイメージ

この図に「まちづくりの姿」として、「富里市まちづくり条例（解説付）のP.5 2条の条例の説明◎まちづくり（第2号）これを「まちづくりの姿」として別紙のように表示したらどうでしょうか。この文章をもう一つ、内容を具体的に示してほしいと思います。防犯、防災活動の中味、環境保全・環境美化活動の中味、保健・福祉活動の中味などの中味を具体的に示してもらえれば、協働のまちづくりの中味が具体的にイメージできるような気がします。



(70代以上男性)

- ・資料の中の案がありすぎて整理が出来なかった。もう少し整理してまとめた方がよいと思う。

1/25 アンケートより（委員）

(60代男性)

- ・資料1に関して：記述内容はそれなりに可だが、今後こうやっていくという Action Plan（誰が、時間軸）があれば、更によいと思う。

(60代男性)

- ・協働の説明があったが、非常に良かったと思う。Q6の様に何をしようとするのか解らないのが残念。

(70代以上男性)

- ・このフォーラムの継続(回数の増加)、実施地域の拡大(8小学校区単位で、出来ないか。4小学校区で…)をどうしていくか、推進委員会に期待します。

1/29 アンケートより(一般)

(30代男性)

- ・資料1は、わかりやすくてよかった。

(70代以上男性)

- ・良くまとまっていて、全く初心者にも読み易く理解し易かった。

(60代男性)

- ・協働のまちづくり推進、実行計画(素案)大変理解出来ます。

(40代男性)

- ・ボランティアポイント制は良い案と思います。

(70代以上男性)

- ・大きな運動を進めていくには、資料にばらつきがある。

(60代男性)

- ・自分のもうけばかり考えているお店から転換しないと人はよってきないのではないか?今、はやりの安売り店を研究してほしい。

(60代男性)

- ・これからよく読んでみる。

(70代以上男性)

- ・今回このフォーラム参加は始めてなので、少し勉強したい。

(40代女性)

- ・いかにもっと無難。役所と同じ、読みたいとは思わない。グループに分けないと意見はしにくい。

(60代男性)

- ・今後の実行、評価及び条例・実行計画の見直し等を含めた多面的なプロセスの提案が欲しかった。

- ・避けて欲しいこと; 条例制定検討委員会→推進計画検討委員会→推進委

員会→〇〇実行検討委員会→〇〇実行計画審議委員会→ いつ実行???

- ・〇〇委員会制は、もう止めましょう！
- ・出来ることから始め、その中で理念を勉強していく方法が現実的だと思います。走りながら「まちづくり」を学び、走りながら考えていく手法を期待しています。

1/29 アンケートより（委員）

（60代男性）

- ・実行時間軸を短く。評価基準を clear にして、効果が上がらない／実効がないテーマは直ちに止めることが重要である。

Q8) どんな富里であってほしいと思いますか。また、本日の地域フォーラムについてご意見がございましたら、ご記入ください。

1/25 アンケートより（一般）

（70代以上男性）

- ・（協働のまちづくり条例から感じたこと）

（1）市の財政（税収入）には、限界があります。足りない部分を市民の力でカバーできないでしょうか。「地域の課題」は、市に負担をかけるのではなくて、自主的に解決しましょうということ呼びかけている。これも市政への参画になる。市政に協力していることになります。条例は善意で考えているところがよいと思います。

（2）市民の生活は、豊かでない部分があります。絆でカバーしたいという期待を協働のまちづくりは呼びかけているように思います。

（3）効率が書いてないところがよいと思います。

（70代以上男性）

- ・NPOとの違いが、今いちわかりづらかった。

1/25 アンケートより（委員）

（60代男性）

- ・参加者は、約40名、そのうち市職員と委員会委員が30名位。即、一般参加者は、10名程度しかいない。これをどうみるか、どうするかがポイントと思います。

（60代女性）

- ・ 関谷先生の本当の意味での「協働のまちづくり」についての説明のように住民と行政の間に溝のない、歩み寄り、話し合いができるような富里市であって欲しいと思う。

(60代女性)

- ・ 住民の意見をきく時間ととり方が下手です。もっともっと市民の声をきくフォーラムでありたいです。

(70代以上男性)

- ・ このフォーラムの継続（回数の増加）、実施地域の拡大（8小学校区単位で、出来ないか。4小学校区で・・・）をどうしていくか、推進委員会に期待します。

1/29 アンケートより（一般）

(30代男性)

- ・ アツイ富里！

(60代女性)

- ・ 私は日吉台住民でございます。駅からメイン道路がありながらシャッターの降りた店、夕方からのネオン、本当に自分が住んでいる町でもがっかりしてしまいます。特に小学校のすぐ前にいかがわしい店が商いをしています。なぜ、許可がおりるのか、市長に聞いてみたいことの一つです。子供達にどう説明するのか。又、成田ニュータウンのボンベルタから帰って来ると町のきたなさが目に付きます。街路樹だけでもけやき or さくら並木等をつくっても良いのではないのでしょうか。

(50代女性)

- ・ 各団体が多くの団体がたくさんの活動を行なっているにもかかわらず、横のつながりがなく、ただ一つの団体が活動を行なっているのが現状で、富里全体での輪をひろげていけないのか？横のつながりを連携をもつことで協議会を作ってはどうか？区長会、社会福祉協議会、ボランティア、PTAなど組織を作っても良いのでは。

(70代以上男性)

- ・ 時間が短すぎた。構想はよいので、ぜひ実現させたいものだ。普及させるため、更にこの様を持って意見を集めるべきである。

(50代女性)

- ・ 各々の自治会で行なっている活動や行事を発表しあい、今後日吉台小学校

区で行なっていけるものがあるか？行政に協力をしてもらう事があるのか？を検討できる場があるともっと具体的に地域の活性化がはかれると思います。

- ・地元の問題点を出し合う場もあると良いのでは？

(60代男性)

- ・日吉台小学校区の地域は、すべての面で先駆していると思います。今後は、富里市（行政と民間）との話し合いの推進を行っていただきたい。

(60代男性)

- ・市民提案型の条例ができた以上、その基本を踏まえて、行政側のサポート体制の確立が必要となるので、その環境づくりをお願いします。

(40代男性)

- ・PRについては、一般一市民へのアプローチは、しつこく積極的に繰り返す事が大切だと思います。どのような事でも、まず知ってもらう事が大事な部分（回覧でなく、全戸配布、メール配信 etc.）と考えます。

(60代女性)

- ・市と連携した地域づくり、高齢化するなか、交通機関のサービス、お買い物サービス等、住みやすいまちづくりを目指してほしい。日々の生活に不便を感じない様に皆で取り組めたら良いと思います。

(60代女性)

- ・安心してすめる街。今の日吉台の街は、今後どのようになっていくのだろうか心配しています。

(70代以上男性)

- ・行政と市民が新しい時代に即したまちづくりのビジョンを目指して、共に健康で楽しく汗を流しながら、作り上げていくプロセスにこそ意味と意義がある。

(60代男性)

- ・近くにおいしいお店があれば、人は集まってきます。沢山のおいしいお店があれば、より集まってきます。商店会の方は、自分のもうけばかりでなく、繁栄できるまちづくりを考えていただきたい。市の方は、若い人達が住んでくれる方策を考えていただきたい。住宅の減免（住宅補助、入居したら何年間は減額にするとか）

(60代男性)

- ・誰でも参加出来るように複雑な細則，組織化は必要ない。誰でも自由に余裕を持って参加出来ないと言続きしない。

(70代以上男性)

- ・“富里市協働のまちづくり条例”という事は，本日始めて知った。今後勉強していきたい。

(60代男性)

- ・安心，安全，生活を楽しめる地域に！

(60代男性)

- ・安全で，安心して生活出来るまちであって欲しいと思う。

(70代以上男性)

- ・“地域フォーラム”をもっと聞いて“富里の将来像，理想の姿”をしぼり込んでほしい。

(60代男性)

- ・若い人の参加者が少ない。先々考えた時若い人を取り込みしていくべきだ。

(50代女性)

- ・委員間，パネリスト，質問者の打ち合わせがもう少しあったら良かったのかと思います。各地域単位から富里全体で，活発な取り組みを実現させ，市民に見えるようになってもらいたい，つなぎ合わせるといいですね。フォーラム後のステップアップは，どの様になるか楽しみです。私も何か参画できたらと思います。形だけの条例を作るだけではダメですよ。(市も)責任持って進めて下さい。

(60代男性)

- ・富里市全体の協働のまちづくりとして考えなのか。地区に別けて考えるのか？全体像がはっきりしない。

(60代男性)

- ・協働の根幹である「市民」と「行政」からして，パネラーに行政がないのは不思議です。あまり行政を期待しない，逆に提案先として考える位が大切だと痛感しました。

(50代男性)

- ・安全，安心の町づくりであってほしい。
- ・スーパー堺屋よりジョイフル本田に抜ける道路の拡幅&車道/歩道の分離による安全確保を今後考えてもらいたい。

(70 代以上男性)

- ・富里の未来が見える計画を明確にすべき。成田市との合併問題も考えるべきである。

(40 代女性)

- ・小学校の空部屋に幼児，高齢の人達と一緒にコミュニケーションを取る場所にする。室内に有るプールで，学生がリハビリを手伝い，年上の人との助け合い交流をする。現在ある建物という人達で触れ合う。

(60 代女性)

- ・富里に住んでいることを誇りに思えるような町になってほしい。貧しくても，皆があたたかく支え合って，気持ち良く暮らせる町。緑が豊かで，小ざれいな町にしたい。

(60 代男性)

- ・市民レベルの具体的な問題の顕在化とそれに対する具体的解決策の市としての対応が迅速に実行可能になる仕組み（システム）を作り上げることが本条例の目的であると思うので，具体的解決策をあくまでも実行しやすくして，実際に実行していくことが最も肝要であると考えている。

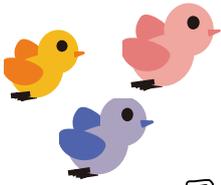
(60 代男性)

- ・市の現状，将来を見たときに，市の中心行政は，農業であると思います。しかし，農業従事者の高齢化に伴い，重量産物であるスイカや大根から離れ，軽量産物にシフトしつつあります。
 - －農業は，農業従事者だけでなく，未経験の人達をも巻き込んだ地域全体とした農業活性策を実現する富里市であって欲しい。
 - －JA にお任せの市農業政策から市民を巻き込んだ農業政策への転換を期待します。
- ・福祉政策では，市行政に迫力が感じられません。民生委員に頼る福祉から地域で助けあう福祉へ。それをサポートする市独自の体制を作り出す気概が欲しい。

1/29 アンケートより（委員）

(60 代男性)

- ・主催者及び行政側がともなって一生懸命やっていることは感じられるし，評価できる。市役所内各部／各課を一つの Component としてとらえ，協働により組織と人員の縮小化も重要である。まずかりより始めヨ。



みんなで考える“まちづくり”

地域フォーラム

を開催します。



見て、聴いて、感じて、
あなたの知恵を みんなに話して!

平成23年

1月25日(火) 18時~20時 富里中央公民館 4階大会議室

1月29日(土) 14時~16時 北部コミュニティセンター

《第1部》 先進事例発表

【発表団体】 特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ
臼井ふるさとづくり協議会（佐倉市）

※団体の紹介は裏面へ

《第2部》 意見交換会【パネルディスカッション】

「富里市における協働のまちづくりについて」

※両日とも同じテーマで討論します。

主催：協働のまちづくり推進計画検討委員会

発表団体の紹介

◎ 特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

市民活動や市民事業を行う団体・組織をサポートし、地域づくりに貢献すること、NPO同士の交流や学びあい、支えあいをサポートする「場」としての役割を果たすことを目的に活動している団体です。

◎ 臼井ふるさとづくり協議会（佐倉市）

臼井小学校区を基準に、区域内で活動する自治会・町内会・区を基盤として、地域で活動する団体・組織が、それぞれの目的や活動を尊重し合い、緩やかに連携・協力することで、地域が対応出来る課題は協働して解決していこうとする組織です。

コーディネーター

せきや のぼる
関谷 昇 氏

千葉大学法経学部准教授
富里市協働のまちづくり推進計画検討委員会アドバイザー



フォーラムって？ 協働のまちづくりって？

「協働のまちづくり」

… 市と市民が一緒になって住み良いまちづくりを目指すことです。

「フォーラム」

… 「Forum」：公開討論会、みんなで話し合う場所です。

今回のフォーラムは、みんなで富里について考えていること話しあいます。



協働のまちづくり推進計画検討委員会の検討経過

私たち検討委員会では、平成22年6月23日に1回目の会議を開催し、以降会議を重ね、富里市協働のまちづくり条例に沿った実行計画を検討してきました。

今回の地域フォーラムについては、市民のみなさんのご意見を伺うために開催いたします。

※ なお、検討状況については、市ホームページに掲載してあります。また、委員会

【問い合わせ先】

協働のまちづくり推進計画検討委員会事務局（富里市総務部企画課）

〒286-0292 富里市七栄 652-1

電話：0476-93-1117 メール：kikaku@city.tomisato.lg.jp

ホームページ：http://www.city.tomisato.chiba.jp/

アンケート

今後、検討委員会を進めるにあたり、参考にさせていただきたいと思いますので、皆様のご意見をお聞かせください。

(該当するものに○をつけてください。)

Q1) 性別

a 男 b 女

Q2) 年齢

a 10代 b 20代 c 30代 d 40代 e 50代
f 60代 g 70代以上

Q3) お住まいの小学校区

a 富里小 b 富里第一小 c 富里南小 d 浩養小
e 洗心小 f 日吉台小 g 根木名小 h 七栄小
i その他 ()

Q4) ご職業

a 自営業 b 農業・自営業等, 家業の従事者
c お勤め(フルタイム) d パート e 学生
f 専業主婦 g その他 ()

Q5) 本日のフォーラムに参加して「協働のまちづくり」についてどう思いましたか。

a 共感を持った b よくわからなかった c 共感を持てなかった

特に印象に残ったことがございましたら、ご記入ください。

Q6) 本日のフォーラムを聞いて今後の活動の参考になりましたか。

a なった b ならなかった

裏面もお願いします。

どんなことができそうだと思いますか。もしございましたら、ご記入ください。

Q7) 本日配布させていただいた資料について、ご意見や具体的なご提案がございましたら、ご記入ください。

Q8) どんな富里であってほしいと思いますか。また、本日の地域フォーラムについてご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

協働のまちづくり推進計画検討委員会

